

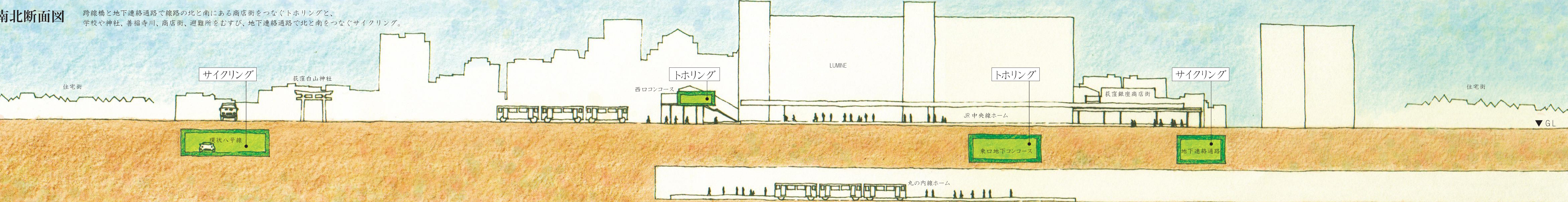


ふたつのみどりのリングによる荻窪まちづくり

荻窪のまちのたくさんの可能性を「ふたつのリング」でつないで、こちよ、災害に強い、ふれあいの生まれる街をつくる提案

- 1. リングはすでにある「①自然 ②16の商店街や神社、学校、避難所、③線路の北と南」をつなぎ、まちに「あたらしい交流」を生みだす。
- 2. リングはまちの「みんなで緑化」し、平常時には気持ち良いプロムナード、災害時には避難所をつなぐ「災害時連絡パス」となる。
- 3. リングは、荻窪に新たな「いぶき」をふきこむ「地域資源」である。

ふたつのリングは、トホリングとサイクリングからなり、それらは緑化されている（りょくナビ）。また、トホリングとサイクリングを商店街がつないでいる。



ダイアグラム トホリングとサイクリングのふたつのリングの間を商店街が繋ぐ。ふたつのリングは、普段は気持ちの良い緑の街を、有事には災害に強い街をつくる。



各要素について



トホリング
歩行移動サイズのヒューマンスケールのリングである。すでにある跨線橋と地下連絡通路で線路の北と南にある商店街をつなぐ。跨線橋や連絡地下通路まで緑化される。トホリングはトホ（徒歩）+リングによるネーミングである。

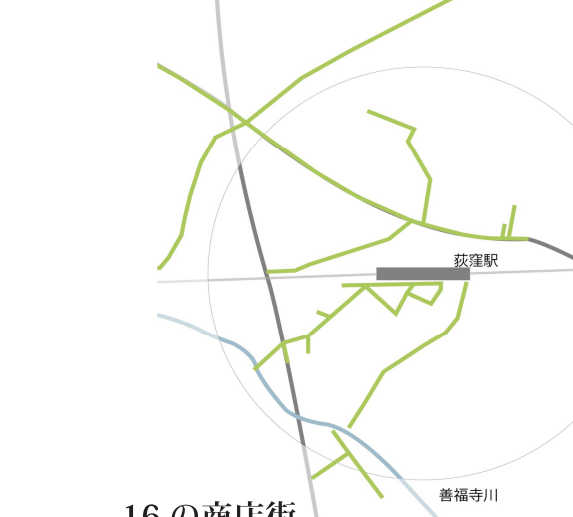
各要素の関係



サイクリング
学校や神社、善福寺川、商店街、避難所をむすび、地下連絡通路で北と南をつなぐ。災害時に最も利用価値のある自転車によるリング一周が可能である。平常時は、気持ちの良い緑の、バス通り、プロムナード、サイクルロードである。サイクリングは自転車であるという意味とリングを掛けた。

にぎわいの創出

トホリングが商店街の端点を繋いでいるので、はじめて荻窪にきた人でもトホリングの上を歩けば必ずどこかの商店街にたどり着くことができる。



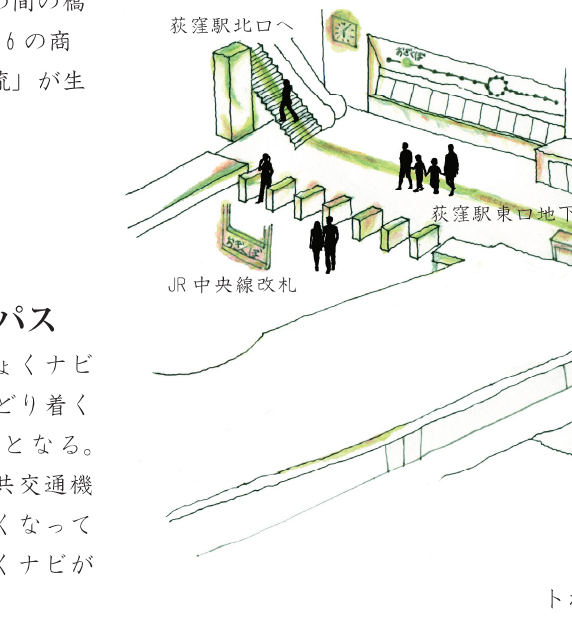
16の商店街
トホリングとサイクリングのふたつのリングの間の橋渡しとなる。また、ふたつのリングによって16の商店街が物理的に繋がることで「あたらしい交流」が生まれる。

災害時連絡パス

災害時にはりょくナビが避難所へたどり着くためのガイドとなる。電子機器や公共交通機関が機能しなくなっても、りょくナビが導いてくれる。

りょくナビ

リングは緑化されることにより現状であることが視覚化される。緑化は、道路の白線や、照明ポール、信号、ガードレールなどの道路の交通装置に施す。商店街の店やリングに面する住民たちが、植物をみんなで育て、緑のリングができ、荻窪独自の街並みとなる。その緑のリングづくりは、リングを導き、街までも導いていくであろう。リングが緑によって導く（ナビ）ことからネーミングした。



りょくナビのある風景

